

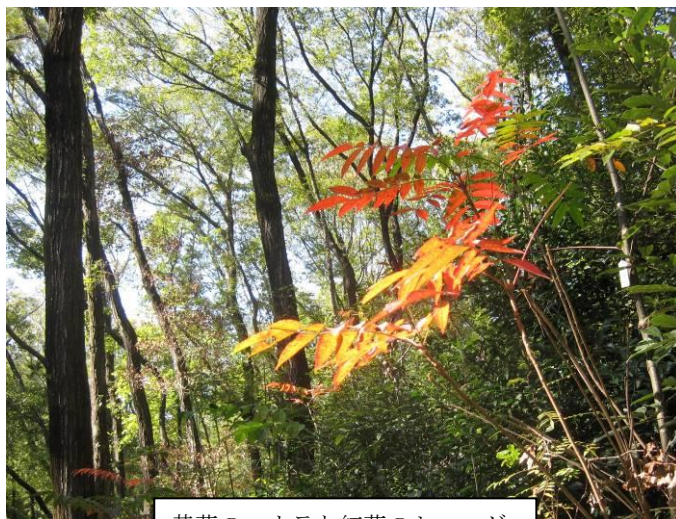
## お鍬山 植物たより (H26. 11. 15)

秋も深くなってきました。お鍬山でも遊歩道沿いに点在しているヤマハゼ・ヤマウルシ・ヌルデの紅葉が見事になってきました。かぶれるというので毛嫌いの木ですが、いまの時期の散歩には紅葉を眺めるのに欠かせません。

昨年の今頃のお鍬山の遊歩道はドングリのじゅうたんのようでしたが (H25.11.17 掲載)、今年はそれほどではありません。

ドングリが不作のためようです。その原因の一つが、7月頃に10年周期で大量発生するというマイマイガの幼虫にカシ類のような堅い葉ですら食われてしまったからと云われています。お鍬山もその例外ではありません。(新聞紙上を賑わせているクマの人里出没もドングリの不作が原因とか)

孢子によって増える植物をシダ植物といいます。お鍬山では、落葉性ではワラビ・ゼンマイ、常緑性ではウラジロ・コシダ・ベニシダ・シシガシラなどが自生しています。これからは常緑性のシダが目立ちます。ウラジロは正月のしめ飾りや餅の飾りとしてお馴染みです。ウラジロの茎は長く伸び、その先端から毎年2枚の葉を付ける。数年分の葉が生きているので、「おじいちゃん・おばあちゃん」の間から茎が出て「お父さんとお母さん」の2枚の葉があり、さらにその間から「若夫婦」の2枚の葉が出ており、それぞれ裏が白いので、夫婦共白髪まで長生きしますようにという、縁起物だからです。ウラジロとよく似たコシダは、葉が繰り返して二又分岐する点が異なります。ベニシダとシシガシラは根茎から束生します。シダ類の多くは葉の裏に孢子をつけるのですが、シシガシラは孢子をつけるための葉、孢子葉を持つのが特徴です。その孢子葉をいま、シシガシラはつけています。そのようなところを見るのも散歩の楽しみであります。



黄葉のコナラと紅葉のヤマハゼ



コシダ (上) とウラジロ (下)



コシダ



ウラジロ



ベニシダ



シシガシラ (裸葉と孢子葉)